

●新タワー（デジタルタワー）建設に寄せられる期待

東京都墨田区の押上・業平橋地区では、2011年に完全移行するテレビのデジタル放送用の電波タワーの建設が進められている。

このタワーは610mと世界一の高さを誇り、地上350mと450mの展望台に訪れる観光客は年間540万人と予想されている。また、タワーの足元には商業や業務、文化など様々な機能の導入が予定されており、墨田区にとって近年まれに見る地域活性化の大きなエポックとなっている。こうしたことから墨田区ではタワーの開業効果を見据えた周辺整備計画や、観光振興計画の見直し、交通システムの再構築など様々な関連計画に着手している。一方で隣接する台東区浅草地域においてもタワーとの連携に関連したまちづくりビジョンや交通システムの導入が両区で個別に検討されている。

隅田川をはさんだ台東区と墨田区は、江戸下町の伝統文化が今に息づく地域であり、多くの外国人も訪れる東京の観光拠点である。こうした地域に建つタワーの集客効果を活かすためには、行政区という枠組みを越えて両区が連携して地域一体の活性化計画や交通計画などの検討が望まれる。

（第二計画部 海口晴彦）

●イスタンブールの都市交通

アジア大陸とヨーロッパ大陸の両方にまたがって広がる海峡の街、イスタンブール。人口1200万人、その歴史は数千年にもものぼる歴史的な国際都市です。現在この街が直面している交通問題に対処すべく、JICAによる技術協力で交通マスタープラン策定のための開発調査が行われています。

イスタンブールの交通は主に自動車交通で占められ、公共交通の占める割合はわずかです。しかし、そのバリエーションは豊富でバス、ミニバス（24人乗り）、乗り合いタクシー（9人乗り）、地下鉄、LRT、路面電車、ケーブルカー、フェリー等々、10数種類に分類されます。また、新しい技術を取り入れるのにも積極的で、今年9月にも高速道路の車線や中央分離帯を整理して、BRT（Bus Rapid Transit：バス高速輸送システム）のための専用車線を設け通称メトロバスの運行を開始したばかりです。

ところが、異なる交通モードの乗り換えのための結節や、相互乗り入れ等は考慮されておらず利用者にとっては不便で、また、都心に集中する流入交通のために朝夕には交通渋滞によりほとんど動かなくなってしまう状態です。

一方、近年トルコでは大地震が頻発しており、イスタンブールでも30年以内にマグニチュード7以上の地震が起こる確率は65%とされています。しかしながら、地震による倒壊の危険性の高い構造物が大多数を占めており、いざ大地震が襲ってくれば大きな被害が出るのが予想されると、数年前のJICA調査で指摘されています。それを受け現在では、緊急輸送路が地震によって塞がれるのを避けるため、円借款による橋梁の耐震補強プロジェクトが進められているところです。

以上、このような問題の解決に今回の交通マスタープラン調査が大きな役割を果たせるべく日々奮闘しつつ、東西の文化の結節点であり歴史的な遺跡・遺産の豊富な古都の空気を満喫している現地スタッフでした。

（海外室 酒井夕子）

●木曽路の風情

思い立ったときにぱっと車で出かけて、温泉旅館に2～3泊しながら古い街並みをだらだら散歩するというのが理想です。先日は念願だった木曽路を訪ねてきました。首都圏からは遠く感じられるのと、中央道を長時間走ることによるストレスを感じてつい後回しになっていたのですが、これがしかし、なかなかの残り福。

奈良井（ならい）は、中仙道を塩尻から木曽路に入って最初の大きな宿場町で、かつての賑わいは「奈良井千軒」と云われたほど。まことに見事な屋並みが連なります。街並みにとくに手を加えた様子も伺わず、「鍵の手」など宿場町のカタチがほぼそのまま残っており、見飽きることがありません。観光化もほどよいアクセントになっており、にぎわいとふだんの暮らしとの兼合いがちょうどいい按配です。

また、観光テーマパーク化してしまったとお嘆きも耳にする妻籠（つまご）

～馬籠（まごめ）なども、たしかにお住まいの方のほとんどは観光客相手の生業で、生活感や風土といったものは薄いのですが、早くから街並みの保存に取り組み、「そのために何をするか？」と、観光に活路を絞った行政やメディアの動かし方、付加価値やイメージづくり、またこの「割り切り方」も、中山間地域での開発のひとつの考え方だと思うのです。それほどのデザインがこの街には行き渡っていて、それがプライドのようなものを感じさせます。

やっぱり「カタチ」を残すことが重要なんですね。「カタチ」から入るんでいいんですから、まずは。そして「カタチ」にいろいろなものが宿る。

(デザイン室 山田順造)

発行責任者：代表取締役 庄山高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp>

Copyright 2007 ALMEC Corporation. All rights reserved.